

# 身近なことから環境を考える

## —生活で実践できる学習を目指して—

- 環境や資源に配慮した生活のために、身近なことを通して自分たちの生活の課題に気づく。
- 環境を守るために地域で取り組んでいることに目を向け、その活動に自分たちも協力し、活動していこうという意欲と、生活に生かせる力を身に付ける。
- 日々の生活の中で、3つのRの実践は、ごみの発生を抑え、資源の有効活用や様々なエネルギーの節約などにつながることが分かる。

### 1. はじめに

現代の生活では、消費することにより、日々ごみも生み出している。これらが環境にも影響を与えており、現時点で、処分量がまもなく限界にきているごみ処理場も少なくない。生活環境を考える上で、ごみ問題はとても深刻である。そこで、身近なごみについて取り上げることで、これから暮らし方やごみ・リサイクルに対する関心を高め、実践していくという意欲を身につけさせたいと思い、生徒が暮らしている地域のことを中心とした題材を使って授業を行った。

### 2. 題材について

#### (1) 高知市のごみの分別

高知市では、下記のように家庭ごみを分類し、収集している。

- |   |             |
|---|-------------|
| ○可燃ごみ                                     | ○発火器具・ライター類 |
| ○プラスチック製容器包装                              | ○可燃粗大ごみ     |
| ○ペットボトル                                   | ○不燃ごみ       |
| ○布類                                       | ○家電品        |
| ○紙類…5種類に分類<br>(段ボール、新聞・チラシ、雑誌、飲料用紙パック、雑紙) |             |
| ○ビン類…3種類に分類(透明、茶、その他)                     |             |
| ○カン・金属類…2種類に分類<br>(空き缶・スプレー缶、金属類)         |             |
| ○水銀含有物                                    |             |

高知市では、可燃ごみを週2回、プラスチック製容器包装を週1回、資源・不燃物を月1回収集している。資源・不燃物収集の時には、町内会を中心としたボランティアの方々が、資源・不燃物ゴミステーションで分別を協力して行っている。生徒たちの身近なところでこのような活動が行われており、分別するということに対しては、生徒たちの意識も高い。しかし、少しずつ分別の仕方も変化ってきており、何をどの項目に分類したらよいのか分からず、実践まではできていない生徒が多い。

#### (2) 教材の作成

高知市環境政策課が出しているパンフレットやホームページを参考に、右記のような教材「ごみのカード」「分類表」「高知市のごみの出し方(パンフレット)」を作成した。

ごみのカードは、経済産業省の「ごみイラスト素材集」を活用し、生徒たちの身近にあるものを選んだ。

また、ごみの分別で間違いややすいものをいくつか実物で用意をした。



### 3. 授業展開について

#### (1) ワークシートを使って

まず、ごみの分類についてワークシートを使って確認した。ごみの種類によって収集日や収集回数が異なっているが、おおまかなことについては、理解できている生徒が多くいた。また、自治体が収集しないものもあることを知り、不法投棄の問題などにつながっていることに気づく生徒もいた。

#### (2) ごみを分類しよう

各グループで、ごみの出し方に合わせた分類表に、ごみのカードを分類した。まずは、燃えるものか燃えないものかを考えて大きく分類し、次に細かく種類別に分けていく作業をした。

プラスチックごみは、プラスチック製容器包装ごみと可燃ごみに分ける必要があるが、身近に多くあるごみのため、実物でプラスチックごみ（スプーン、お菓子の袋、バケツなど）を示し、考えるようにした。多くの生徒が示したものすべてをプラスチック製容器包装ごみと勘違いしていた。プラスチックにも分類があることを知り、驚いていた。

次に、各家庭に配布されているごみの出し方のパンフレットで、分類の確認をした。1つ1つ確認してい

く中で、今まで知らなかった発見もあり、ごみの出し方について理解を深めることができていた。

細かい分別作業ではあるが、これが地域の方やボランティアの方の協力により、丁寧に行われていることで、資源の有効活用につながっていることに改めて気づいたことは大きかった。

この学習を通して、ごみを分類すること、ごみを減らすことが、環境を守ること、資源を活用することにつながるという意識づけができたように思う。

### 4. おわりに

ごみの分別は、市町村により異なり、また指定ごみ袋を使った有料制度となっていることが少なくない。そんな中、高知市は多くの市民の協力により、指定ごみ袋を使わない高知方式と呼ばれるごみ収集の取り組みをしており、他の自治体からも注目されている。この取り組みを続けていくためにも、今回のような授業を通して、生徒たちにごみの削減、環境への配慮などに対する意識を養っていきたいと思う。

また、事後指導として、ごみだけでなく環境に配慮した「エコ活動」にも関心をもってもらおうと、環境省が作成した「3 R まなびあいぶっく」なども活用し、学習活動に取り入れた。すみやかに使った学習では、グループで楽しく学び、エコ活動への関心ももてたようだ。様々な活動を知り、少しでも環境に配慮した生活が実践できるよう、これから授業を考えていきたい。

#### 参考文献・参考Webページなど

- ・経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/illust/>)
- ・環境省 3 R 容器包装リサイクル法 (<http://www.env.go.jp/recycle/yoki/index.html>)
- ・高知市 環境政策課 (<http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/63/>)

